彼の後に生まれた幸運に感謝する

中島　大介

国立研究開発法人　国立環境研究所

私の人生に後悔があるとすれば，そのひとつはカール・ベームの指揮する演奏を生で聴くことができなかったことだと思う。

彼の演奏をLP版で聴き始めたのは1970年代後半のこと。1980年の人見記念講堂での演奏がNHKで放送され，当時子供には高価だったベータマックスの磁気テープに録画して繰り返し観た覚えがある。

今，週に数回，就寝前に1時間ほどのウォーキングに出る。その時に40年以上前に録音された彼の演奏を聴くことがある。どれも私が思春期から繰り返し聴いてきた作品だ。長く入院生活を送った母が，モーツァルトのCDが欲しいと言った時に病室に届けた演奏。別れの花束を買い求めた後に，雑踏に押されながら聴いた歌劇の序曲。私の人生と伴走し，今なお新鮮な感動を与えてくれる名演の数々。彼が，私より先に生まれ，その作品を遺してくれたことを幸運と思わざるを得ない。彼の演奏には賛否も好き嫌いも存在するのは承知しているが，素人の私に感じられる彼の素晴らしさは，よく評される構成力に加え，スコアに対する真摯な姿勢と演奏の細部に至る緊張感の持続，だと思っている。

今，何と言った？「真摯な姿勢と細部に至る緊張感の持続」と言ったか。
嗚呼，なんという耳の痛い響きだろう！

人生とは短いものだ。職業人生となるとなおさらである。研究の世界に入門してから30年になる。いつまでも駆け出しだと思っているうちに，既に第四コーナーに突入してしまったようだ。もう，やり直しの利かないところまで走ってきてしまっている。お前の仕事は，細部の響きに妥協がないか？全曲を通した構成は綿密に計算されているのか？演奏の途中で，時間を気にしてスキップしてばかりではないか？そして，その仕事に真摯に向き合っているのか？巨匠と天才が遺した作品と，私ごときを比較すること自体が無意味なのだけれども，その姿勢くらいは比較されても仕方がない。

言い訳はいくらでもある。朝，机の前に座ってメーラーを立ち上げる。多くのやり残した仕事が受信ボックスに溜まっている。ひとつずつ（気の乗らないものは後回しにして）処理している最中にも，新たなメールがどんどん届く。年度計画を提出しろ，研究成果のポンチ絵を送れ，オンライン研修を受講しなさい，LCMSの感度が落ちているようです，議事録の確認をお願いします，相見積がついていません，有給休暇の取得日数が不足しています……。

それでも，おそらく現代の研究職なら皆同じような境遇にあるだろう。そして，これでも恵まれた環境にある方だろう。

世の中には本当に良い仕事というものがあり，それに時々気づいてしまうことがある。映像であれ，音楽であれ，建築であれ，今や理解不能な若者文化の中にも，溢れる才能と，全力で取組む強い意志が伝わってくる仕事がある。それらに触れるたび，心の中で称賛を送るとともに自戒を深める今日この頃である。

（了）